

1. 経緯

国の幼稚園教育要領の改訂

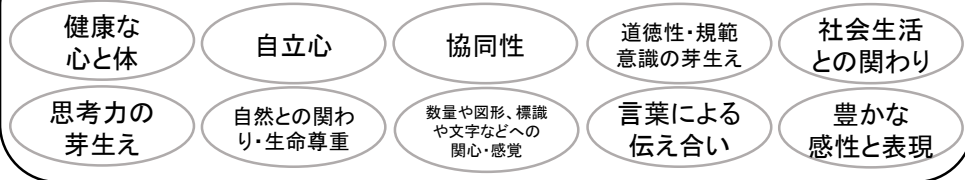
平成30年度から実施(保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領も同時実施)

○改訂のポイント(国資料より引用)

- ・「環境を通じて行う教育」という基本は不変
- ・幼児教育において育みたい資質・能力を明確化
- ・**5歳児修了時まで**に育ってほしい具体的な姿を「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」として明確化
- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を小学校と共有することによる幼小接続の推進
- ・主体的・対話的で深い学びを意識した体験の多様性・関連性を重視

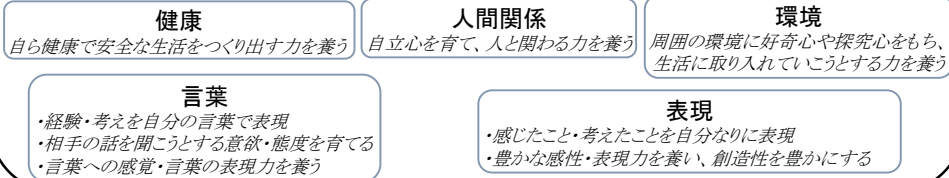
幼稚園教育要領等

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」



5領域のねらい及び内容に基づく活動全体を通じて資質・能力が育まれている幼児の幼稚園(保育所・認定こども園)修了時の具体的な姿であり、教師が指導を行う際に考慮するもの

教育項目(領域)



幼児期の終わりまでに目指すものは提示されたが、その**具体的な実践手法**までは示されていない

本県の課題

- 国が毎年小・中学生を対象に実施している「全国学力・学習状況調査」及び「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、**「学習意欲」・「規範意識」・「自尊感情」・「体力」に関わる項目の本県の数値が、全国平均に比して低いというデータ**が示されている
- これらの意識・能力の向上が必要

課題	学習意欲		規範意識		自尊感情		体力		
	該当項目	割合	該当項目	割合	該当項目	割合	体力合計点(女子)	点	
		奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国
小学校		80.4%	80.9%	93.6%	94.0%	74.5%	76.3%	55.00点	55.54点
中学校		70.5%	73.1%	92.4%	93.7%	66.4%	69.3%	49.51点	49.56点

※1 学習意欲・規範意識・自尊感情の該当項目

全国学力・学習状況調査のアンケート項目から(H28)

※2 体力の該当項目 全国体力・運動能力、運動習慣等調査(H28)

本県の教育課題

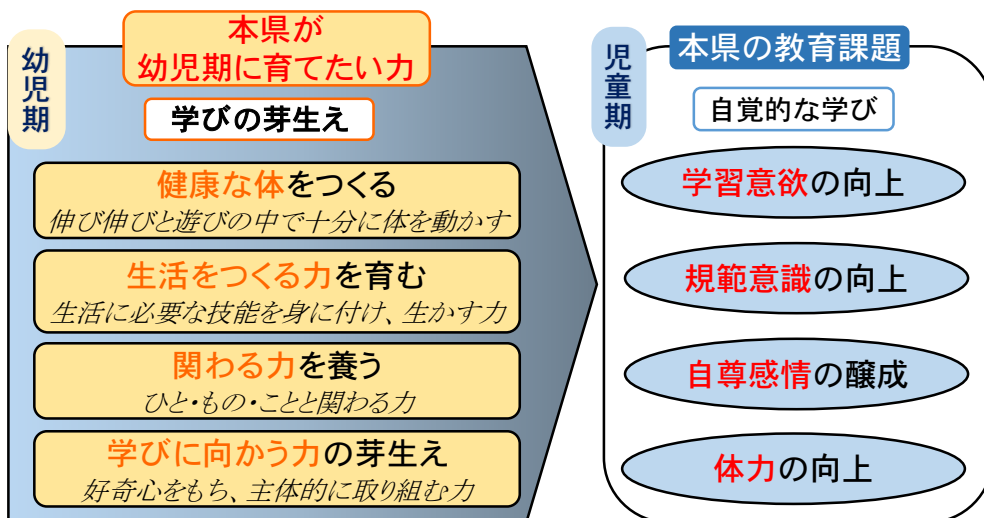


これらのいわゆる「**非認知的能力**」の向上のためには、**就学前教育の充実**が必要

奈良県教育振興大綱において、「乳幼児の心身の発育・発達を促すための適切な遊び・運動・しつけについて、専門的観点から効果的な手法を検討し、『就学前教育プログラム』として実施」と位置付け

2. 体系

子どもが就学後に、「学習意欲の向上」、「規範意識の向上」、「自尊感情の醸成」、「体力の向上」が図られるよう、**幼児期に育てたい力を「学びの芽生え」をテーマにプログラムを4つの体系に整理**



※「本県の教育課題」と「本県が幼児期に育てたい力」の各項目が1対1で対応するものではなく、それぞれが相まって対応するもの。

3. プログラムの構成

教育・保育

○現場（幼稚園）での取組

- ・効果的と考えられる取組、特徴のある取組

○海外事例（米国・ハイスコープ就学前教育カリキュラム）を参考にした取組

- ・県内幼稚園・保育所で実践した結果、効果的と考えられる取組

・子どもに対する保育者(教員)の声かけ等の援助に主眼を置く

幼小接続

- ・市町村で取り組んでいる事例

教員に対する研修

- ・効果的と考えられる取組、特徴のある取組

プログラムの内容 幼稚園等で実践している優れた取組を選定

【事例収集】

○現場（幼稚園）での取組

5～7月 私立幼稚園全園の園長と担任教諭から、**具体的な取組を収集**

★収集した取組：

- ①本県の教育課題の解決につながる、効果的・特徴のある取組 266
- ②園所で実践している教員研修 24

○海外事例（米国・ハイスコープ就学前教育カリキュラム）を参考にした取組

6～10月 **県内の幼稚園・保育所に取組案を提示し、現場の実情に応じて実践**

実施園：田原本町立南幼稚園、明日香村立明日香幼稚園、登美が丘カトリック幼稚園、畿央大学附属幼稚園、五條市立宇智野保育所、ふたば保育園

★収集した取組：226

好事例や効果が分かりやすい取組を選定

- ・奈良教育大学・横山教授からの支援（相談・助言）
- ・取組とは異なる幼稚園の園長にヒアリングし確認

○現場（幼稚園）での取組：16

○海外事例（米国・ハイスコープ就学前教育カリキュラム）を参考にした取組：12

計：28

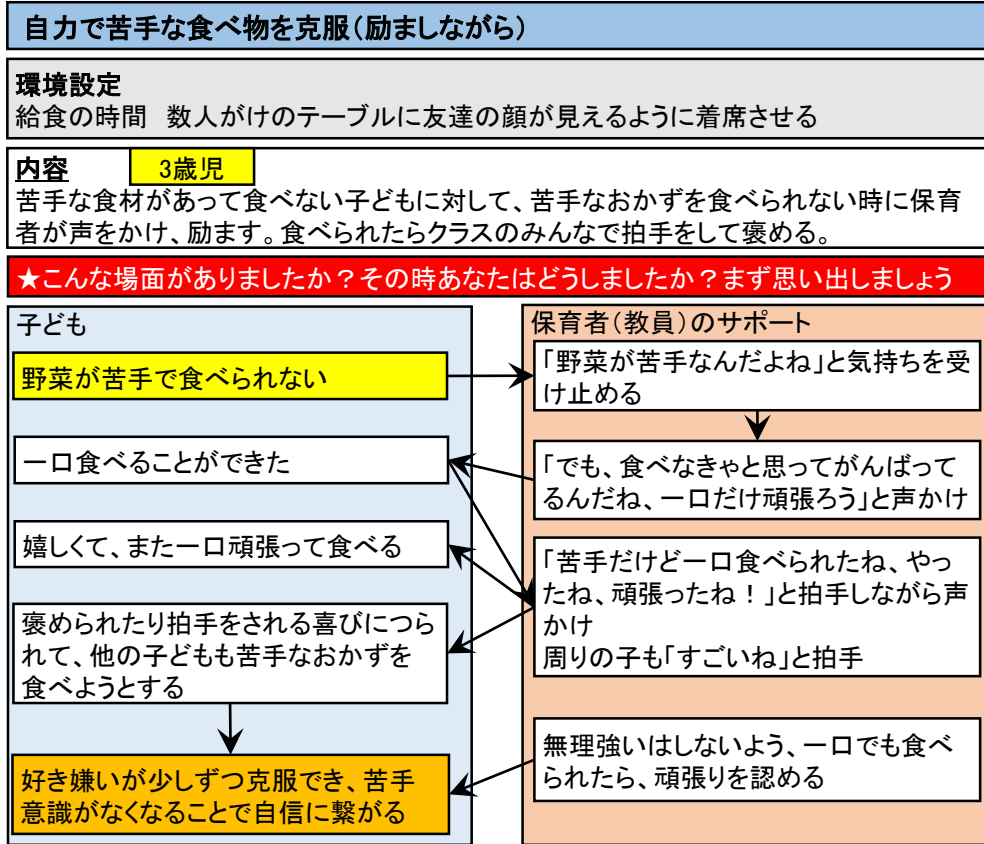
プログラムの一例

「幼稚園の現場での取組」と「海外事例を参考にした取組」から、25の事例を選定し、保育者(教員)の援助・声かけを重視したプログラムとして編集。

○現場(幼稚園)での取組

・生活をつくる力を育むのに効果的と考えられる取組

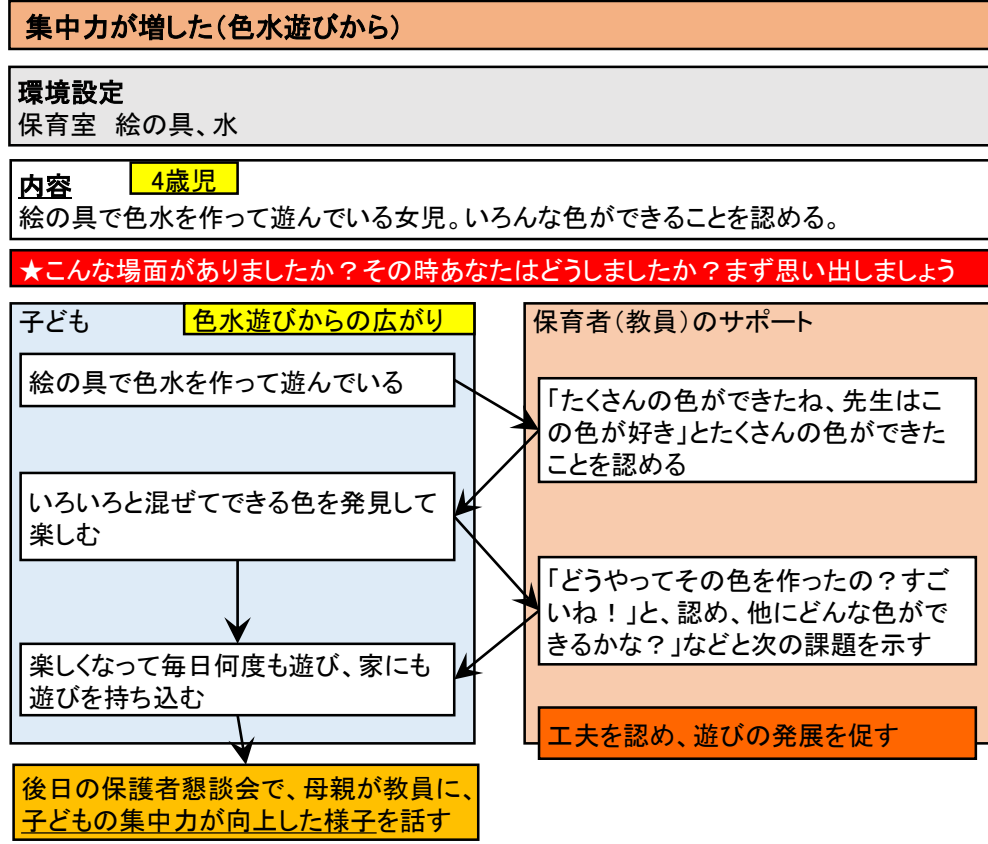
白百合幼稚園



○海外事例(米国・ハイスコープ就学前教育カリキュラム)を参考にした取組

・学びに向かう力の芽生えに効果的と考えられる取組

田原本町立南幼稚園



健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり	思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量・図形・文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現
◎				0				0	0

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の該当項目を参考表示

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり	思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量・図形・文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現
					0				◎

考えてみましょう

- 類似場面を実践した場合に、導いた結果はどう変わりましたか
- 苦手な食べ物を主張する園児にはどう関わっていますか？
- 4歳、5歳児の場合の関わり方も考えてみましょう。
- 苦手な食べ物を克服したことを保護者にはどう伝えましょうか

現場で実践する際にも、発展的に研修もできるよ

考えてみましょう

- この子どもの遊びが発展するためにはどのように援助しますか
- 他の子どもの関わりはどうですか
- 集中力が向上したことは、他の場面ではどう見立てますか

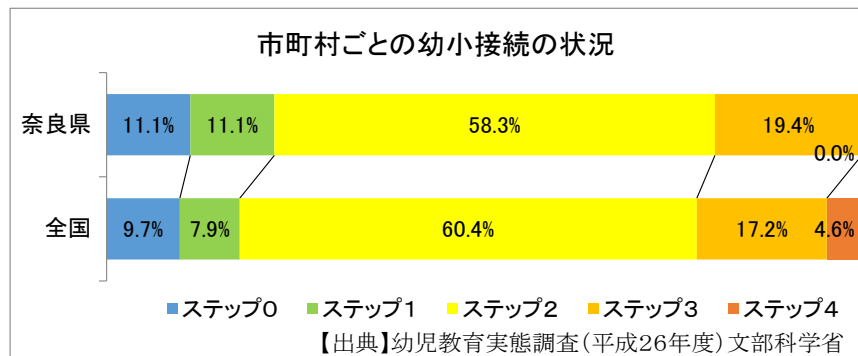
幼小接続の取組

幼児期から小学校への円滑な接続を図るため、小学校を核として地域の幼稚園・保育所・認定こども園が連携し、子どもの交流や教員の合同研修などの実践活動を通じた、**実際に現場で取り組んでいる**有効な接続期のカリキュラム

市町村	主な取組・特徴
大和郡山市	・1年生入学時の「困り感」の視点からカリキュラムの内容を検討 ・幼・小の活動の相互理解・合同研修 等
天理市	・子どもの主体的な活動を中心に、楽しさを感じる交流活動を創出 ・付けたい力を共有し、交流及び意見交換しながら教育内容を工夫 等
宇陀市	・子どもの戸惑いや不安感を出発点に、交流内容を組み立て ・公立幼・保・私立保の3園所で、就学を意識した5歳児交流を実施 等
川西町	・教育委員会が接続をコーディネート ・交流などの取組の基礎として、組織・人のつながりづくりを重視 等
吉野町	・園と小学校は距離があり交流機会は限定的 ・入学直後に園長先生が学校訪問し絵本の読み聞かせを実施 ・保護者にも交流活動の様子を知らせる 等

[参考]

本県の幼小接続は、全国と比べ、接続を見通した教育課程をもとにした継続的な実践には進んでおらず、交流にとどまっている傾向。



※「ステップ」の段階

- 0: 連携の予定・計画がまだない
- 1: 連携・接続に着手したいが、まだ検討中
- 2: 年数回の交流はあるが、接続を見通した教育課程の編成・実施は行われていない
- 3: 交流が充実し、接続を見通した教育課程の編成・実施が行われている
- 4: 編成・実施された教育課程について、実践結果を踏まえた検証が行われている

教員の資質向上

〇現場で実践されている研修の一例

「子どもを見る目」を養うための研修

登美が丘カトリック幼稚園

ワークショップ 子ども一人ひとりに焦点を当てて話し合う「マインドマップ」作り

ねらい・効果

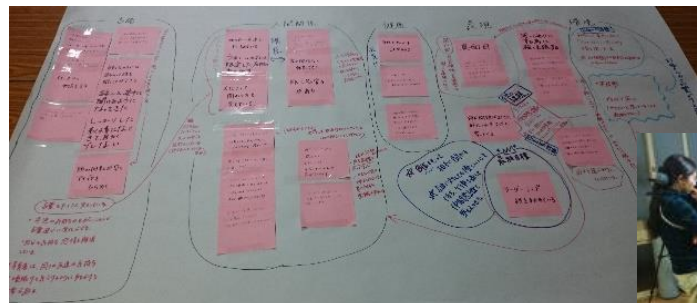
一人の子どもに焦点を当て、担任の教員とそれ以外の複数の教員が、それぞれの視点で気付いている点・見立てている点を言葉で出し合うことにより、**教員の子どもに対する理解力の向上や、視野の拡大につながるとともに、教員間で子どもの情報について共有できる**

内容（進め方）

- ・「余り目立たない子」「落ち着きのない子」「リーダーシップのある子」等テーマ出し
- ・模造紙の真ん中に園児の名前を書く。
- ・その園児について気付いていることを参加者が付箋に書いて貼っていく。
- ・貼られた付箋をグループ分けして整理。複数の領域にまたがる事柄もある。
- ・完成したものが「マインドマップ」で、職員室に貼って教員間で共有。
- ・3年間で全園児のマインドマップを作成することが目標。

※マインドマップとは

- ・英国の著述家が提唱したノート術。
- ・紙の中心に主題を書き、そこから放射状に線と字を書いていく。
- ・絵や色を多用するため、直感的に分かりやすく、アイデアを出しやすい、記憶力が上がるなどのメリットがある。

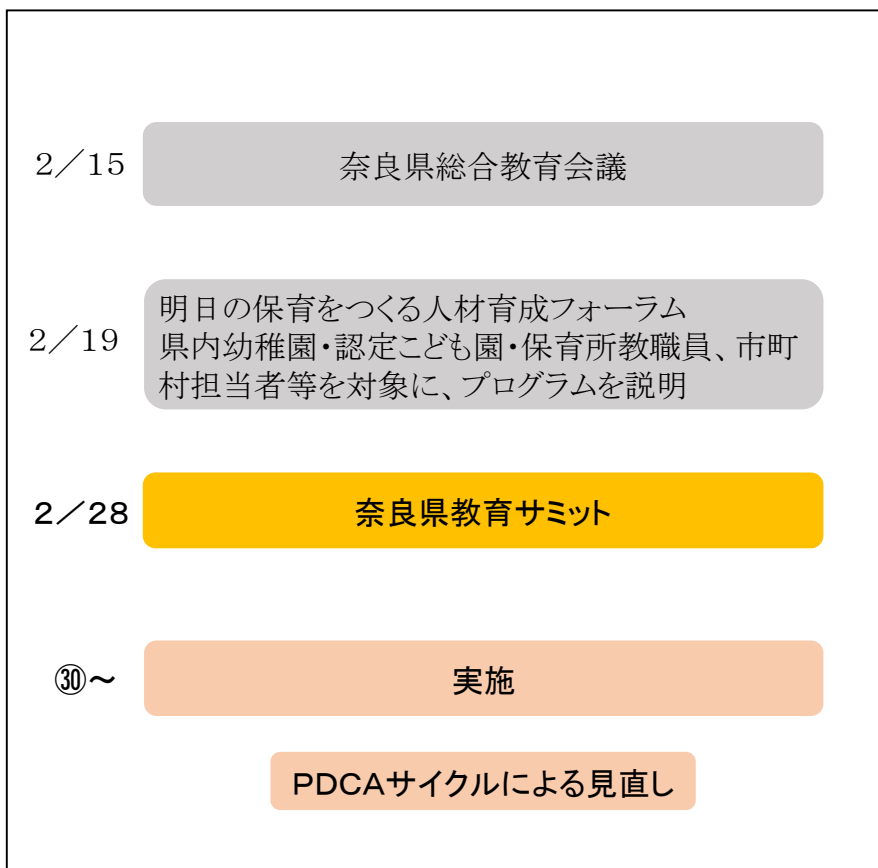


マインドマップの作成例



研修の様子

【参考】今後のスケジュール



H30年度 of 取組

○「奈良県版就学前教育プログラム」を普及させるための取組

①モデル協力園を選定し、プログラムの実践と検証を実施

- ・プログラムの内容を実践し、検証
(例:実践しない場合との比較、園ごとの違いを比較 等)
- ・県内の幼稚園・保育所・認定こども園に対する研究発表

モデル協力園:公立・私立の幼稚園・保育所・認定こども園から計4園

- ・就学前教育アドバイザーの活用

②各園でのプログラムを実施する様子を撮影したDVD及び解説書を作成

③モデル協力園での実践・検証結果を踏まえ、プログラム内容を深化

